

学校運営協議会議事録

日 時		令和 6 年 10 月 12 日 （ 土 ） 10 時 0 分 ～ 12 時 0 分			
場 所		蒲郡中学校 多目的室			
出席者	委員等	21名			
	学 校	蒲郡中 校長	蒲郡南部小 校長	蒲郡東部小 校長	竹島小 校長
		蒲郡中 教頭	蒲郡南部小 教頭	蒲郡東部小 教頭	竹島小 教頭
	市教委	学校教育課 1 名			
議題		① 「蒲中学区あいさつ運動」について			
協議要旨		意見の概要 協議題 ①	・ 気持ちのよいあいさつは笑顔であいさつすること。子どもたちも笑顔をもってあいさつ運動に取り組んでほしい。 ・ あいさつを返すとき目が合えば必ず笑顔になる。それが大切。 ・ すべてのコミュニケーションの始まりはあいさつだと思う。小学校に中学生が来てあいさつ運動をしたのは、自分たちの進学先の姿が見られてよい。小学生が中学校に行っても面白い。 ・ 小学生中学生別日にあいさつ運動を開催して、小学生が中学校に来てあいさつをすると中学生がしっかりあいさつするんじゃないかと思う。保護者にもしっかり告知して、親が朝起きて「おはよう」や「いってらっしゃい」を言うなど家の中からも発信できるという。地域の人にもあいさつ運動をすることをポスターなどでアピールすると地域の人にもあいさつができてさらによい。 ・ 登校の時のボランティアで交差点に立っている方が最近はいいさつをしても返ってこないと言っていた。バッチを渡すということをやっていただければ、子どもからあいさつが返ってくることになるのかなと思って期待してる。 ・ 図書館を利用しての皆様はこちらからあいさつをするようにしている。こういうことを地道に続けていけばあいさつが定着してくる。イベント的なことも大事だが、普段から地道に計画していくことも大切。 ・ 障害のある方で発達障害だとあいさつのできない子が一定数いるが、できないことをできないままじゃだめ。岡崎市の支援学校の先生が「あいさつは健常の方が思うよりすごく大事」と言っていた。これは社会の中で愛される人になる、その一歩目があいさつ。あいさつを積極的によりから働きかけるのが理想の姿。 ・ 子どもに顔を覚えてもらえば子どもの方からあいさつしてくれる。バッジをつければ子どもたちは安心してあいさつができと思う。 ・ 元気なお年寄りだけでなく、学校や交差点までは行けないけど家の前でなら立ってあいさつできるというような方にもバッジが配られるといい。 ・ 学校で地域の人を知ろう集会をしたら、子どもたちが地域の方の名前を覚えてあいさつできるようになった。子どもたちが交差点に立ってくれているボランティアの方の名前がバッジをつけることで覚えてあいさつしやすくなるといい。あと、お祭りで常会でせっかく集まっているのに地域の方の名前を子どもは知らないの知ってほしい。 ・ バッジに渡す人の名前を書いて渡すともらった方も楽しくなるのかなと思う。 ・ 子どもがあいさつをできる、できないは親との関係性もある。家庭であいさつができていないと子どもは、あいさつできないのかも知らない。家庭の対策は難しいかもしれないが、学校で「（あいさ		
		まとめ	①あいさつの大切さを学校教育の中でも家庭との関係も併せて生活の様子を見てきちんと指導していく必要がある。 ②自分から率先してあいさつできるようにするには、顔つなぎ、名前がわかる、そういった手段を手立てとしてもつ。 ③一つのことを地域の人とやっていこうとするときに、地域の方とのコンタクトが大切。子どもの思いを大切にしながら、子どもにも限界があるので、大人の手助け、力が必要になってくる。		
協議資料		「運営協議会資料」「協働本部だより（チームがまごおり）」「地域学校かけはし通信」「がまカフェだより」等			
備 考		傍聴者 [3] 名			